

令和6年度 亘理町いじめ問題再調査委員会  
第20回委員会 会議録

- 開催日時 令和6年8月19日（月）午後2時30分
- 開催場所 宮城県自治会館 2階 208会議室
- 出席者 長谷川啓三委員長、鎌田健司副委員長、神春美委員、  
佐々木央委員、川端壮康委員
- 説明のために出席した者  
大堀俊之総務課長、久保参事兼総務班長

【公開】

（長谷川委員長）第20回の委員会になりました。まだ暑さが去らないところで委員の皆さんには暑い中をさらに熱く作業をそれぞれしていただきよろしくお願ひしたいと思います。ということで始めさせていただきます。

（久保総務班長）それでは初めに本日配布させていただいた資料の確認をさせていただきます。鎌田副委員長の方でまとめていただいた報告書の案でございます。あと佐々木委員から本日頂戴いたしました、「第3部本委員会の見解」という資料を今回配布させていただきました。それではここからの

進行を長谷川委員長よろしくお願いいたします。

(長谷川委員長) はい、それではこの委員会も後半、それもまた後半になってまいりましたが前回に引き続いて報告書作成に向けた協議を進めてまいりたいと思います。それで今ご紹介ありましたように今日は2部出ておりますが、今ぱっと見た判断のところでは、関係の皆さん、報道の皆さんにいていただけたところから言うと、調査報告書の方から説明かかる方がいいんじゃないかという気がしますけども…これはこの説明っていうのもしにくいのかな？

(神委員) ちょっとすいません。これ今配られてるのは鎌田委員の資料でしたっけ？川端先生が統合して作られた資料ですよ？

(鎌田委員) そうです。

(神委員) じゃあいいんだ。了解しました。

(長谷川委員長) どうしますか？ これどちらから検討しますかね？ それともそれ以前に何かここでお話しておきたいことございますか？

(鎌田委員) 決めなくちゃならないのはまず全体構成これでいいのかとあと細かな点で第1とか1とかそういった所の統一と、あと呼称。人物の呼び方の統一はちょっと決めた方がいいかなと思ってるのと、あと川端委員が黄色で修正して青が検討事項ですかね。そこについても今日確認した方がいいのと、あとはこの佐々木委員の原稿文についての取り扱いっていうのをそのあたりが今日決めなくちゃならないところなのかなと…。あとはそれをどこまで公開でやってどこから非公開にするかというところかな。

(長谷川委員長) そうですね。どこからいきますかね。これ進め方で言うと今のいくつかのことについて別々に行くか、それとも例えばこれを1ページから目を通して検討す

るという方法もありますね。

(川端委員) やっぱりこのどういう書式でいくのかというのは最初に決めた方がいいと思いますね。

(鎌田委員) そうですね。

(長谷川委員長) それではちょっと全体見るところから行きましょうか。

(鎌田委員) ちょっと私進めてもいいですか？じゃあ今言った第1、1のあたりですが第1部から第5部まであるんですが部の次の項が第1、第2となってるのと第1はなくて1から始まっているのとあるんですがまずそれをどっちかに統一だと思うんですが第1のない方が多いのかな。川端先生のは大体…。

(川端委員) 僕はそのまま1で一応公用文のあれに従ってる

と思うんですが逆に言うところの最初第 1 っていう風に書き始めるのはなんかそういう定番の定式とかにあるんですか？

(鎌田委員) うん。判決は多分…。

(神委員) ありますよね。あるんですけど第 1 部に関して言えばこの書き方はこういうスタイルが実はあるんですがそれに沿ったものなんですけどただ章立てとしては川端先生が今回メールで送ってくださったこの章立て・構成に、統一する方が私はいいと思うんですけどね。

(川端委員) まあ分かりやすいはわかりやすいですね。

(鎌田委員) じゃあ第 1、第 2 っていうのはなくして 1 から始まって次が (1)、(2) で次がア、イ、ウ。で、次が (ア)、(イ)、(ウ)。で、小文字の a、b、c。それから小文字の (a)、(b)、(c)。それで統一でよろしいですか？

(川端委員) あと読点、句読点もまああの読点はマルでピリオドってことは普通あり得ないと思うんですけど読点がカンマの場合と点の場合があってそれも人によって結構使い方違う。

(佐々木委員) ちょっとその前にその第1、第2の方先に片付けたいんですけど分かりやすければいいというのが前提になっていて私は(1)、(2)の下を①、②にしてあるんです。それでなぜかというとな、イ、ウだと順番がちょっと長い文章が入ったりした時にこれは何番目の項目かというのが分かりにくいので数字で落としていった方が…。ア、イ、ウとかイ、ロ、ハとか使わない方がいいんじゃないかという風に普段色々物事整理する時も数字で整理していった方がいいと思ってるのでなるべく全部数字にしてほしいなという風に読んでるときの立場として思うんですけどもやっぱりこれはア、イ、ウにしていくって感じですか？

(川端委員) 例えば数字の 1、2、3。次 (1)、(2)、(3)。次 ①、②、③。その下はどうするんですか？

(佐々木委員) 僕の場合、今使ってるかどうかは忘れちゃったけどローマ数字の I、II、III、IV。で、まるカッコにするか片まるカッコにするかって辺りは自分の中でもぼらついてるかもしれないんですがそうやって数字で落としていって…。

(川端委員) まあ英語だと片カッコですね。あとローマ数字って一般にもっと大きい枠で使うことが多いような気がするんですけど…。

(佐々木委員) でかいローマ数字ではなくて小文字のローマ数字。i、ii。あれ数字が見やすいので、法則性があって…。

(川端委員) それは報道機関とかで普通に使われているスタイルですか？

(佐々木委員) 結構社内とかで整理していくときに…。

(川端委員) そういうスタイルもあるってことなんですね。

(長谷川委員長) それでいきますか？

(鎌田委員) えっとですね、例えば37ページ見ていただくとですね、こういう感じで①、②、③を本文中で使う可能性があるんですよ。もしそうだとすると①、②を項の方で使うとちょっとわかりづらくなるので…。

(神委員) 見づらくなる…。

(鎌田委員) そうなんですね。

(佐々木委員) そのことはすごくこだわってるわけではないんですけど読む側として読みやすいかなと思っていて私は



だからこういう風に出てくるときにはローマ数字の i)、ii) っていう片カッコのローマ数字小文字でまるの下は落としていくという風に…。

(長谷川委員長) いかがですか？この辺は。決めて前進んだ方がいいのかな？

(佐々木委員) あと学校側が書いてる文章もあまりア、イ、ウでは整理していなくて1、2、3みたいな感じ…。決めてもらえればまあやりますけど…。

(長谷川委員長) どうしましょう？

(川端委員) どっちでもいいんですけどまあ分かりやすい方に統一すればってことですね。そこはあまり大きな問題じゃないのでどちらがより分かりやすいかってことですよ。

(佐々木委員) 多数決にしますか？

(鎌田委員) 委員長決裁で決めるか、多数決かだと思うんですけど…。

(長谷川委員長) 多数決でいきましょう。

(川端委員) あと、でも少なくとも段落を下げてく方がいいと思いますね。1個カテゴリーが下がるごとに1段落下げてく風にしないと何が何だか分からなくなっちゃう。

(長谷川委員長) 1段落下げる？

(鎌田委員) 意外と、でもそれ難しいんですよ。これだけ長いと結構その…。

(神委員) ずれるんだよね。

(鎌田委員) そうなんです。

(川端委員) まあ色々たくさん出てくるとこれはどのどういうレベルのカテゴリーの話だったか分かんなくなるから大体場所を見るとこのレベルの話だなんてことが分かるようになってくる…。

(鎌田委員) いじるとなると結構難しいですよ。

(川端委員) どれが一番見やすいんでしょうかね？

(鎌田委員) 見やすいのは先生言ったやつで、あと直す人が大変だろうなという…。

(川端委員) 僕はちょっとこれが見やすいと…自分が使ってきたので分かりやすいけど、でもそうじゃない人がどう見えるかってことは分からないので…。いろいろ工夫によっては論文スタイルでポンとあげたりとか強調してボードにしたりとかレタリングにしたりってやり方もありますよね、そ

れは。見やすさを追求するのであれば。

(佐々木委員) 事実経過の例えば私書いたところ、26、27 ページあたり開いていただくと 13 番とか 14 番とか 15 番とかずらっと…これ一字下げが消えちゃってるので余計読みにくいですけどその Word ってこれなんか転記したときに 1 字下げ消えちゃったりするのであとでまた自分で直しますけどそのこれがア、イ、ウになっていくとですね、ハ、ヘ、ホとかそういう風なものが出てきてですね時系列で書いてあるっていう感じがちょっと混乱するっていうのが私の感じです。順番で書いていてもこの数字ちょっと間違ってた鎌田先生に指摘されて直していただいたりもしたんですけどそういう意味でもちょっと混乱してくるのでア、イ、ウよりいいかなという気がします。

(長谷川委員長) ん？ア、イ、ウじゃない？

(佐々木委員) じゃない、まるの数字の方が混乱…で、何か

入れたり削除した時も数字を一個ずつ上げてけばいいって  
いう感じでやるので、アイウエオ、カキクケコだともちろん  
それ1つ上がるんですけどキがカになるとか、キがクになる  
とかっていう操作の仕方で以下1個ずつずらすみたいな感  
じで数字よりも単純作業じゃなくなるのでめんどくさいな  
って気がします。

(鎌田委員) 委員長が決めるか多数決にするかどっちかに決  
めちゃいましょう。

(長谷川委員長) はいはい。僕が決めます。佐々木委員の方  
でとりあえず進めてみませんか？

(鎌田委員) そうすると1の次が(1)、(2)で次が①、②で  
すか？

(佐々木委員) そこから下げるときはローマ数字を使う。

(川端委員) 段落下げはするんですか？それによってまた全然…。

(佐々木委員) 段落下げなくても分かりますよ。その数字が頭がそろってたりすると。

(神委員) ローマ数字は小文字を使うの？

(鎌田委員) 例えばどれですかね？

(佐々木委員) 使ってるどこあったかな？…もう事実関係書いてからだいぶ経ってるのでちょっと使っていないかもしれないですね。最初の頃は使っていたんですけども。

(川端委員) なんか8ページに①の下に片カッコになってますけど①の下、ローマ数字じゃなくて片カッコなんですか？

(鎌田委員) これでいいんですか？佐々木委員。1) “片カ

ッコ1”。2) “片カッコ2”。

(佐々木委員) これはローマ数字にしてなかったですね。これ多分これ以外の問題を最後に…。28 ページ、29 ページがはっきりわかる。28 ページから 29 ページに行くところで教育相談の記録を分類してるんですけどここでローマ数字使いました。本来おっしゃる通りこの 8 ページもかたカッコのローマ数字にすべきだったんですけども文中に出てくる時のことも考えて…。片カッコじゃなくて丸カッコの方がいいですかね？

(鎌田委員) 丸カッコって何ですかね？

(川端委員) なんか法則性あるんですか？ちょっと誰が見てもパッとわかるような法則性がないと訳分かんないですね。

(神委員) いや、文中の改行には使いにくいんじゃないの？  
かえって…。箇条書きだからこれでいいけど。

(鎌田委員) これローマ数字ですね。

(佐々木委員) そうです、そうです。

(川端委員) それはちゃんと仰ってた方がいいですね。片カッコはなしですか？

(佐々木委員) 片カッコ、それ見ると片カッコでは使ってなかったんですけど本文中だと片カッコの方が見やすかったりするんですけど…。

(川端委員) それはローマ数字に統一するってことですか？

(佐々木委員) ローマ数字の小文字で丸カッコで統一で…。

(鎌田委員) そのあとはもうないですかね？



(佐々木委員) もうないです。

(鎌田委員) 川端先生のところもこの4つくらいでいけますかね？

(川端委員) やれと言われれば。

(鎌田委員) 大丈夫ですかね？もう一個くらいカテゴリーがなくていいかってことですけどね。

(川端委員) もう一個くらいっていうのは…。

(鎌田委員) こう一字下げてた時に…。

(川端委員) 下げないと、でも僕は見えにくいと思ったので…。

(鎌田委員) いや、そっちの意味じゃないですよ。この下

にもう一個、5つ目のカテゴリーがいないかという意味ですよね。先生の本いた文章の中で…。

(川端委員) 何があたるかってことですか？1が1とか(1)が1とかそういうのですか？

(鎌田委員) えっとですね、5つ目の分類は要らないかっていう意味ですね。先生の。

(佐々木委員) この下ですね。

(鎌田委員) そうです、そうです。ここがいないかってことです。

(佐々木委員) 例えばそうするとここが第1でこの上に第1とかつける。

(鎌田委員) 先生のでア、イくらいまでいってるのあるんで

したっけ？

(川端委員) 第 1、(1)、A、(a) だんだん下がってくわけですね。

(鎌田委員) (a) は使わないんですよ。

(川端委員) さらに上っていう事ですか？全然理解できていない。

(鎌田委員) 先生だけ今ちょっと理解できてないんですけど先生のもともとの公用文書でやるって言ってましたよね。そういつたときに 1、(1)、ア、(ア) って言ってましたよね。そうするとあそこ①のところア、イ、ウでローマ数字のところ(ア)、(イ) くらいのレベルになるわけですよ。それより下のレベルがいらなかって…。

(川端委員) (ア) の下 a、b、c じゃないですかね。

(鎌田委員) うん、だからいるってことですよね。今んところないんですよ、その分類が。それをだから作りますか？っていう話。どこですか？何ページですか？先生の。

(川端委員) ちなみに佐々木先生のあれでは普段はローマ数字の下のランクがあるときはどうするんですか？使わないんですか？

(佐々木委員) そんなに長大な文書っていうのは書いてないので。

(川端委員) その下はないんだ。

(佐々木委員) 流通してないので…。

(長谷川委員長) a、b、cにしない？

(川端委員) まあ使わないやり方もあると思いますけど使わずに書けばそれはそれで。

(鎌田委員) a、b、c ないんじゃないですか？先生の文書の中に。

(川端委員) まあでも a、b までじゃないですかね？

(鎌田委員) a、b ありますか？

(川端委員) a、b もないか。ア、イ、ウまでかな。

(鎌田委員) じゃあこれで大丈夫ですかね？

(長谷川委員長) でいいんじゃないですかね。とりあえずそれで。

(川端委員) そのローマ数字分かりにくければ a、b、c 先

でもいいと思いますけどね。

(川端委員) いや、佐々木先生ルールに従って書き直していくのは良くてそして段下げないでも別にやれと言われればやりますし…まあその書き方で書けないところは…そこに入れるんですか？

(長谷川委員長) そこに入れるの？

(佐々木委員) ここでいいんです。

(川端委員) まあ佐々木先生式に…。

(佐々木委員) じゃあ直してきます。

(鎌田委員) いいですよ。私直しますよ、直すだけであれば。多分ですね、誰か一人やらないとまたずれるんですよ。

(佐々木委員) 一緒にしたときにおかしくなる。

(川端委員) そうです、そうです。この後直したの先生に送りますので…。文章の修正と段落の記号合わせたもの直したらまた送付しますので。

(鎌田委員) それが一つと次人物の呼称ですね。

(神委員) カンマ、濁点にするか。

(鎌田委員) 濁点の方が私は圧倒的にやりやすいですけど…。

(佐々木委員) 私も。

(長谷川委員長) 私も。じゃあそうしましょう。次は決めることは…。

(鎌田委員) 人物の呼称ですね。これは…。

(佐々木委員) その前にもうちちょっと全体に関わる話があつて令和と平成と元号を使ってる文章と、私は前の報告書見た時に彼が何年生の時だったのかっていうのをいちいち平成で言われると分かりにくくて全部事実関係の部は2018年とか2017年に入学したとか、あともう一つはなるべく彼〇〇さんの生育と合わせるためにやっぱり中一の終わりにとか中2の初めの4月とか3月、4月って年度が変わって学年が変わっているのですこも令和とか平成使うとわかりにくくなるのでなるべく彼の英字で表記したり、それから元号じゃなくて西暦で書くことで統一感っていうか計算しやすいようにして、やっぱり裁判とかやってらっしゃる方とか公文書書いてらっしゃる方は令和、平成、その前の昭和とか色んなもの使って変換されていくんでしょうけど一般人についてはこの変換がすごく分かりにくいので分かりやすさってことでいうと元号で統一してほしいなと思います。

(川端委員) まあそういう時はどっちが先か分かりませんけ



ど西暦（元号）か元号（西暦）で併記するのが多いんじゃないですか？

（長谷川委員長） どうですか？

（佐々木委員） いりません。元号。不要です。

（川端委員） だって公用文だから表書きとか絶対令和とか使わないとならないでしょ？

（佐々木委員） やらないですよ、それも。これ今こうなってますけど2024年…。

（鎌田委員） こども2024年にするってことですか？

（佐々木委員） 全然大丈夫だと思いますよ。合理的ですよ。

（神委員） いやいや、合理的かどうかじゃなくてさ役所の文

書って…。

(佐々木委員) 役所の文書でないじゃないですか。

(神委員) だから役所の文書じゃないんだけど我々は役所から受けてる仕事ですから本来の形式はやっぱり役所形式に従うべきでしょってことです。

(佐々木委員) いやいやそんなことはないですよ。

(神委員) いやいやそうではないってやっぱり。

(佐々木委員) わかりやすさが必要じゃないですか。

(神委員) わかりやすいついていうけど例えば2017年とか2018年っていうとそれが昭和か令和かってすぐわかります？分かんないでしょ。一般的には。

(佐々木委員) 昭和か令和に変換する必要はなくて令和4年  
っていわれて何年か分かります？

(神委員) だから同じなんだって。だから今川端さんが言っ  
たように2000何年(令和)とかって書くっていう方がわか  
りやすいでしょ？それ必要ないとかってパッと切る話じゃ  
ないでしょって言ってるの。わかりやすいっていう点であれ  
ば2つ書いてある方がよっぽどわかりやすいでしょ？

(長谷川委員長) これ年齢の問題もあるかもしれないね。ま  
あそこ併記にしますか。なんかいちいち直すのとっても面倒  
だから…。

(佐々木委員) 新聞であればですよ、題号に元号優先の会社  
もあるんですけど基本的に本文中は全部西暦表記でそれで  
題号のところには西暦(元号)となっているのが一般的。

(川端委員) 諮問に向けて回答するわけだからそれはやっぱ

り形式は向こうの形式に持って返さなければならないけど  
中身はこちらの裁量があるわけだからそこは自由にしたら  
いいんじゃないですか？

(佐々木委員) 公文書っていうかその役所から諮問を受けて  
役所に返すんだからっていう側面とそれからご遺族や色ん  
な提言も含めて世間一般に対して公表していくっていう  
我々が社会的責任を果たしていくっていう意味もあって役  
所への責任が一義的に重くて…。

(神委員) いや、そうじゃないと思う。それは絶対に違う。  
私たちが諮問を受けてるのは町長から諮問を受けてるんで  
すよ。だから回答も町長に出すんですよ。一般向けに書いて  
るのではないんですよ、これは。一般向けに公表するかどう  
かは教育委員会なり町長、町の判断だから。言っとくけど。

(佐々木委員) 町長はこれを公務としてやっていてそれでこ  
の諮問も町民の負託を受けた自分の業務の一環として我々

に諮問しているわけですよ。その広く言えば一般市民の要求っていうか…。

(神委員) だから違いますってそこは。公開するかどうかは市民の権利じゃなくて…。

(佐々木委員) これ公開されないことがあり得るんですか？

(神委員) あるんだってもちろん。公開しないところは結構ありますよ。だからここが公開しないっていつてるんじゃないんですよ。もうここはおそらく公開されます。前の文書も公開してますから。公開してないところもあります、それは。

(佐々木委員) いや、そんなのあり得るっていう前提であるってことに今初めて聞いた。

(神委員) いや、それは違います。非公開を前提にするわけじゃなくって答申案が上がってきたときにそれを公開する

かどうかっていうのは自死の事案に限っていえば自死の遺族と町と協議をして公開するかしないかを定めることができるんですよ。それは。で、公開しましょうとなれば公開するんですけど、全国にある全部が公開されているかというところではないんですって。それで例えば市民からの一種の圧力みたいなものがあるって、それで公開に踏み切ったっていう例はあります、それは。だから必ずしも…。まあもちろん公開しないと困るんですけどね。言っとくけど。この案件については。公開されるもんだと私も思ってやっていますよ。

(佐々木委員) 今のお話は遺族のご希望がある場合ってことですよね。

(神委員) 協議なんですけどね。まあ普通は遺族側の方が強いんじゃないかっけかな？ ちよつとごめん、〇〇さん。遺族側の方が強いんだよね？

(ご遺族代理人) そんなことはないですよ。

(神委員) いや、公開するかどうかの件に関しては。

(ご遺族代理人) いや、そうじゃないです。でも遺族は公開をほとんど求めますけど、行政はしないところもあるけど、それは遺族の意見が通らないケースは、中にはあります。

(神委員) だから公開しないところもあるのか。

(ご遺族代理人) そうなんです。公開してないところは遺族の要望が…。

(神委員) 要は通らなかつたってことね。

(ご遺族代理人) はい、そうです。その通りです。

(神委員) だからあるんだって。公開しないところも。

(川端委員) そもそもの話として教育長が諮問委員会を作って諮問を出したと。代理がそこに応じてそれに対して回答出すと。そういう枠ですよ。それをだから誰を意識して書くかとかどういう姿勢で書くかとかは我々の自由だけど枠組みは枠組みなわけだからそれは…。

(長谷川委員長) いやいや両方併記でしょ。両方併記でいいんじゃないですか？

(鎌田委員) 公文書の年標記に関する規則っていうのがあって原則元号だけど西暦による表記を適当と認める場合は併記するものとするとなってるから、だから西暦だけというのはなんとなく私もちょっと違和感ありますけど併記だったらいいんじゃないですか。

(長谷川委員長) か、元号がカッコ内ね。

(鎌田委員) どっちでもいいです。それは。



(佐々木委員) 全部入れてくんですか？

(鎌田委員) そうです。私直しますから。一括変換で簡単ですから。

(長谷川委員長) 簡単にできるの？

(鎌田委員) 簡単です。

(川端委員) まあだから元号（西暦）で入れれば…。

(佐々木委員) 初出だけでいいんじゃないですか。

(鎌田委員) 初出って何ですか？

(佐々木委員) 最初に出てくるときに両方併記して2個目からは西暦にする。

(鎌田委員) 西暦単一がですね、この公文書の規則との関係では公文書ではないですけど、そこからは外れると思うんです。だから両方書くか元号かっていうのが…。

(佐々木委員) いや、本当に分かりにくいですけどね。

(鎌田委員) そうですか。じゃあ全部両方書きましょう。

(神委員) 私は両方の方が。ずっとこう読んでると途中で例えば 2000 何年中学校何年生とかって出てくるとあれ、いつだっけかな？って思うし、例えば平成何年って出てくると西暦何年かってやっぱり思ってしまう…。

(川端委員) だからあと分かりやすくして、むしろそこよりは元号、西暦まで併記するとしてその後ろに(何歳)とか○○さん年齢何歳とかやるとか中1、中2とか入れるとかそういう風にした方が僕ずっとわかりやすくなると思いますけ

ど…。

(鎌田委員) それ永遠にやっていくんですか？

(川端委員) だから全部やるとうざくなっちゃいますけどある程度…。

(鎌田委員) 例えば別紙付けますか？〇〇さんが平成何年の4月から何年の3月までがどうか中学とか…。

(川端委員) なるほど。

(鎌田委員) 全部やってくと…。結構くどい感じがしますね。

(長谷川委員長) でもアイデアとしては面白いからとりあえずここでは今の両方併記と。全部。

(鎌田委員) 併記の場合…。

(長谷川委員長) カッコの中を元号でしょ？

(鎌田委員) で、いいですか？じゃあ西暦（元号）。

(長谷川委員長) それから今の川端先生のアイディアは全体出来上がってひょっとしたらそういうのが親切なのかもしれない。

(川端委員) 分かりました。そういう風にします。

(鎌田委員) あとは…先生言ったやつだと一字下げるかどうかですか？

(長谷川委員長) これどうしますかね？これに佐々木さんの案ではこれにすれば、必ずしも下げなくてもわかりやすいってことなんだよね？とりあえずそれでやってみたらどう？それを見て感じてなんか変だなと思ったらやっぱ下げた方

がいいし…。

(川端委員) まあまあちょっと試してみて…。

(鎌田委員) 形式的なところは以上で、あとは1つは川端委員の変更の中の黄色はまあ修正だから皆さんが良ければよくて特に青の部分ですね。まず37ページですか？

(川端委員) えーっと青のところの37ページかな？

(長谷川委員長) この辺どうですか？ご遺族、報道までいていただいていいようなところかな？ちょっと問題な感じがしますけどね。

(佐々木委員) その前に呼び方の問題…。

(鎌田委員) そうでした。人物の呼称…。

(佐々木委員) 子供たちについては“さん”原則で、性別によっても区別しない。フルネームにしたいんですけど。

(鎌田委員) その辺、原報告書もそうですよね。

(長谷川委員長) フルネームね。

(佐々木委員) フルネーム、さんですよ？

(鎌田委員) そして以下何とかというのをつけないで永遠に何々何々さんですね。

(佐々木委員) それで公開の時にどうするかっていうのもまた話をしなければならない。それで先生については何々教諭、フルネームで。

(鎌田委員) フルネーム、教諭？〇〇二人いますけど〇〇何とか教諭、〇〇何とか教諭って…。

(佐々木委員) いちいちやりますか？

(鎌田委員) いや、私は別に。

(長谷川委員長) よくなんか最初 1 文字だけつけて。区別するのに。

(川端委員) なんかファーストネームで書いたりとか…。あれはちょっと違和感がありますね。

(佐々木委員) やっぱりじゃあフルネームで。これも一括変換できるので…。

(鎌田委員) じゃあ「フルネームさん」、それから「フルネーム教諭」。それで、当該生徒はやめるっていう方向でとりあえずやってみる。

(佐々木委員)先生ついてですけど立場が分かった方が分かるっていうか匿名化していても担任の先生なのか養護の先生なのか学年主任の先生なのかが分かんなくなっていくんですよ。匿名化してしまうと。全部消していくと。で、なのでアルファベットとかにしたらいいんですかね？匿名化したときに。ちょっとその公表版との兼ね合いが少しあるかなという気が。それで私はだからちょっと混乱してるかもしれないんですけど、立場で受けたりしてるんですよ。そうすると黒塗りが減るので。つまり担任教諭はってやると、いちいちフルネーム2年時担任はとか1年時担任はとか1年時学年主任がとかってやるようにすると名前を消していくっていう部分が減って、この人がどういう立場で関わっているっていう事がより明確になるっていう事で、ある意味その透明度が増すかなと思ってそういう書き方もしてる。まだちゃんと整理できていないですけど。

(神委員)とりあえず子供はフルネームにさん付け、先生はフルネームに教諭付けで役職のある人はフルネームの後ろ



に例えばなんとか校長とかってつけるってこと？

(川端委員) 山田太郎校長とか？ うんうん。

(神委員) ですか？ 教諭ではないんでしょう？

(佐々木委員) あっ、そうだ。校長は駄目ですね。

(神委員) 校長とかだから学年主任とかでもそうだし、担任もだから何とか何とか担任とかってする方がいい。

(佐々木委員) 担任の〇〇教諭っていうつもりだったんですけど、教頭と校長については確かに教諭って訳にはいかないので〇〇校長になっちゃいますよね。で、そのあと校長で受けていけば消すのが少ないなという風に。墨塗が多たっていうのは公表版ですけどやっぱりあんまりいい印象ないので減らす方向にしたいなという感じがする…。

(神委員) まだでもそこはまだ分かんないんじゃない？ 例えば山田太郎校長とかって本文にはフルネームで校長って書いても公開時は子供の名前だって教諭の名前だってもしかしたらアルファベット使うかもしれないでしょ。公開分についてはね。

(佐々木委員) そうですね、アルファベットなら墨塗にならないですね。

(神委員) うん、だからそれは今じゃなくてあとから本文全部作ってから考える方がいいんじゃないの？

(鎌田委員) 佐々木さん言ってるのはフルネーム教諭っていうすべてをそうするんじゃないかって役職も入れるってことですよね。

(神委員) だからフルネームで書いても校長とか教頭とかって教諭と違うから役職を頭に持ってくるか後ろに持ってくる

るかはあるけどそれは書かないとわかんないんでしょ？

教諭ではだめでしょ？

(鎌田委員) だからそっちにするってことでいいですか？

(神委員) で、それは頭に持ってくるんだっけ？後ろに持ってくるって言ったんだっけか？そこのところはちょっとまだどうするのか。山田太郎校長にするのか、校長の山田太郎にするのかって話です。

(川端委員) とりあえず教諭というのを基本原則にして先生の仰ることに近いと思うけど適宜必要な時には役職名を入れてくような形をとるということでやってみて、おかしい所があれば個別にチェックしてこれこうした方がいいんじゃないって言った方がいいような気がしますけどね。

(鎌田委員) じゃあとにかくフルネーム教諭で全部統一。一貫してみますね。

(長谷川委員長) まあとりあえずそうしましょうよ。

(佐々木委員) ほぼ第2部の仕事だと思うので、事実関係の方の。だからちょっと一度私誤植っていうか打ち間違いもあるので直してからまた鎌田先生の方に…。それもなるべくできるんだったらやったうえで。

(鎌田委員) 一回戻って青の部分だとすると37ページ。ここからだからあれですね。公開するか、非公開にするかちょっと…。

(長谷川委員長) どうでしょうか？ちょっと難しいかなと思いました。非公開にしないと。

(神委員) 川端さん。黄色い部分、マーカーを入れた部分はこれ、個人的な意見になるんですよね？

(川端委員) どこですか？

(神委員) 黄色の部分は。

(川端委員) あー、これは修正した部分ですね。

(神委員) うん、修正した部分だけどあくまでも川端さんの意見として修正入れてる部分ですよ？

(川端委員) そうですね。つまり前回までは皆さんで合意を入れたという建前だからそこを伺う部分についてはまた意見をいただく可能性があるわけだから分かるようにしてあるってことですね。

(神委員) そういう意味でいいんですよ？

(長谷川委員長) これ議論する必要はない？今のところ。

(神委員) 一回はしないと。いいかどうかの了解はとらないと。それで青のマーカの部分は検討だって言ってる。

(川端委員) まあ非公開になると思いますけど、ここは変えました、ここは皆さんで進めましょうと、そういう段取りでやっていくことになるんじゃないかと思いますが。

(長谷川委員長) それじゃあここから非公開にさせていただきます。